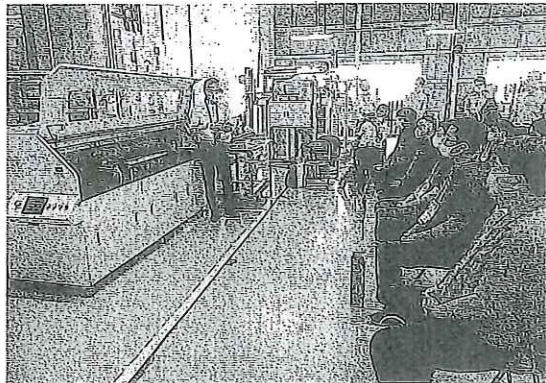


2020 年 8 月 24 日

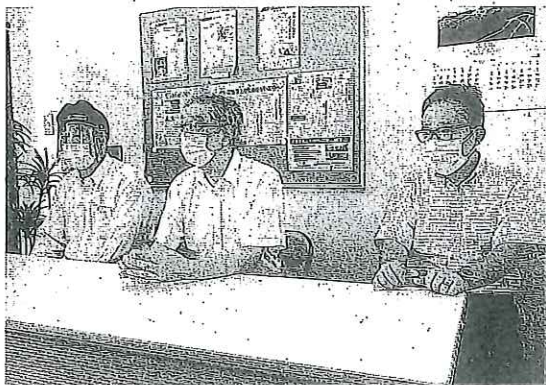
担当者: 榎野

紅屋オフセット
朝日プリンテック
サカタインクス

ローラ再生装置実演



川島工場で行われた実演見学会



会見する(左から)芳村、今井、村瀬の各氏

省エネ・省資源・低コスト

紅屋オフセット(本社・東京都文京区大塚3の20の1)、(朝日プリンテック(東京都中央区築地5の3の2)、サカタインクス(東京都東区東区文京区後楽1の4の25、日教販ビル)の3社)は8月7日、埼玉県比企郡川島町の紅屋オフセット川島工場にて商業用オフセット印刷向け「ローラ再生装置(A.R.S.)」の実演見学会を行った。当日はオフ印刷会社の工場長ら印刷作業に従事する人々を招き、同装置の概要説明と実演を通して、省エネ・省資源・コスト削減などの効果をアピールした。

オフ輪業者招き見学会

実演見学会では、紅屋オフセットの今井敏義社長、サカタインクスの芳村嘉也上席執行役員兼情報システム担当が装置の概要を説明し実演した。ローラ再生装置は、輪

転機の中でインキや水を受け渡したり、練ったりするゴムローラが劣化した際、新品同様に蘇らせる装置。朝日新聞社とそとのグループ会社である朝

日プリンテックが新聞輪転機用に開発した。ゴムを再生する特殊溶剤や、装置の操作を簡単にする。ことにより、印刷現場で再生できるようになった。現在、同社および国内の新聞社や新聞印刷会社で20数台が稼働しているという。

生装置を導入したのは6月末。7月から本格稼働に入っている。

同装置の仕組みは、再生するローラに表面加工した鉄ローラを押し当て、加圧とともに回転させながら溶剤を塗布する。ゴムのスポンジ効果によって、加圧された表面から溶剤が浸み込み、ゴムの膨潤により硬さと径を復活させる。

同時にローラにグリース(インキカスや紙粉など)除去用部材を接触させ、表面に付着した不純物を除去。ローラには、横方向への掃動機能を持たせ、溶剤の均一性やグリースの除去効果を向上させる。ゴムローラ一本当たりの再生時間は約30分。

従来、ローラの劣化したゴムは廃棄となり、専門業者に新品のゴムに巻き替えを依頼していたが、印刷現場でゴムローラを再生することにより、コスト削減と巻き替え時間の短縮が可能になる。装置は三重重工および小森コーポレーション製の商業オフセット対応。紅屋オフセットが導入した装置では、4種類のプログラム(A輪転・B輪転をそれぞれ別のローラの径の大小)を設定。プログラムは溶剤の量やグリース除去の時間など、ユーザーの実情に合わせられるよう10種類ある。

見学会に合わせて共同記者会見が行われ、それぞれ次のようにコメントがあった。

今井社長「ゴムローラ1本再生するのに約30分。2本で1時間かかる。計算上、ある程度の台数のオフ輪を保有していないと採算的に厳しいと思う。同業者にローラ再生のサービスを提供していきたい。」

芳村上席執行役員「新聞オフ輪で実績のある装置を、満を持して商業オフ輪向けに提供する。印刷品質に影響を及ぼすのは、ローラに付着したグリースである。ローラ再生だけでなく、グリース除去の効果もある。」

村瀬役員「用紙が異なるため、商業オフ輪の場合は新聞オフ輪より、多くのグリースが発生する。新聞と同じ30分で再生できるかどうか不安だったが、検証の結果プログラムを変更することによって達成できた。」

コロナ 異変を聞く 原油

「原油需要が低迷している。航空機など輸送用燃料を中心に消費が落ち込み、2020年の世界の石油需要は19年に比べて8~9%減るとみられている。経済活動が上向いて需要回復が進む21年も19年の水準には及ばない。コロナ前の日量1億

日量1億バレル回復22年以降

国際石油開発帝石取締役

矢嶋 慈治氏



「今回の危機がリーマン・ショック時と異なるのは、在宅勤務やオンライン・ミーティングなど、中長期の見通しは、

心は新興国が石油需要の回復を主導するとみる。」「今回の危機がリーマン・ショック時と異なるのは、在宅勤務やオンライン・ミーティングなど、中長期の見通しは、

再生エネへ移行加速も

「英BPが30年までに化石燃料の生産を4割減らす方針を示すなど、欧州メジャーを中心に『原油』にカジを切る動きが目立つ。コロナ下の石油需要の減少が契機になり、化石燃料から再生可能エネルギーへのシフトが加速するとの見方も強まっている」

「だが日本は30年度の目標の電源構成でも56%を火力発電が担い続ける。当社も投資を大幅に減らす、なくすわけにはいかない。脱炭素よりは低炭素という現実的な考えが重要だ。温暖化ガスの排出が少ない液化天然ガス(LNG)が有

エネルギー構造議論避けられず
国際エネルギー機関(IEA)は8月、今年世界の石油需要見通しを4カ月ぶりに下方修正した。新興国を含む世界的な感染拡大が燃料消費に影を落とす。成長をけん引してきた新興国も、たつけば、コロナ後の市場の前提も変わる。国際石油は今期の閉会・探鉱投資を期初の計画に対して36%減らす。海外メジャーは石油やガスの生産を減らし、再生エネ投資を上積みする。中長期の石油市場を見通すにはエネルギー構造の将来的な影を懸念した議論が避けられない。(小野嘉伸)

力な選択肢となり、新興国にもアピールしている。」「今期業績の前提となる価格を北海プレントで1バレル40ドルとした。」「石油輸出国機構(OPEC)などの産油国が、協調減産を通じた需給調

2020 年 8 月 26 日

担当者: 小沢

食用油からガソリン

米フィリップス66 製油所を転換

米フィリップス66は、カリフォルニア州ロデオにあるサンフランシスコ製油所を再編し、再生可能な燃料の生産工場に転換する。原油から燃料を生産することをめ、使用済みの食用油、油脂、グリース、大豆油から燃料を生産する。

先ず、前処理装置を新設する。水素化分解装置や物流インフラは再利用する。当局からの承認が得られれば、2024年初頭に生産を開始できる見通し。年間6億8000万ガロン(日量40000バレル)の軽油ガソリン、ジェット燃料を生産する予定。

先行してロデオでは21年から大豆油を原料に年間1億2000万ガロン(日量8000バレル)の軽油を生産する計画を推進している。生産量は合わせて年間8億ガロン(日量5万2000バレル)と世界最大。再編後、この製油所では原油を一切取り扱わない。

サンフランシスコ製油所には、200バレル(約320ギガバレル)のパイプラインで結ばれた2つの施設がある。カリフォルニア州アロヨグランデのサンタマリアとベイエリアのロデオで、この製油所では、重質、高硫黄、軽質甘口の混合原油を処理してきた。サンタマリアから半精製品をパイプラインでロデオに送り、最終石油製品へのアップグレードしている。

サンフランシスコ製油所の再編にともない、23年にサンタマリアの精製施設を、同年後半にロデオのカーボンプラントを閉鎖。両者結び中間製品を輸送するパイプラインも段階的に廃止する。この転換により収益性を大幅な向上と運転コストの削減が期待できる。温室効果ガス排出量は50%削減。30年に1990年比40%減との高い目標を掲げるカリフォルニア州の低炭素燃料基準に適合させる。

2020 年 8 月 26 日

担当者:水谷

ENEOSとJERA、品川に国内最大級の水素供給所

2020/8/25 13:04 | 日本経済新聞 電子版



ENEOSとJERAが共同で開設した「東京大井水素ステーション」（東京都品川区）

ENEOSは25日、東京電力ホールディングスと中部電力が折半出資するJERAと共同で東京・品川に国内最大規模の水素ステーションを開設した。敷地面積は約2900平方メートルで、1時間あたり10台の燃料電池車（FCV）に充填できる。投資額は非公表。水素エネルギーは中長期的に需要増が見込まれており、今後も供給体制の整備を進める。

JERAが運営する大井火力発電所（東京・品川）の一角に「東京大井水素ステーション」を建設した。都市ガスから水素を製造し、供給能力は毎時600ノルマル立方メートル（セ氏0度、1気圧での体積）。一般乗用車のほか、バスやトラックなどにも水素を供給していく。

実際の施設運営はENEOSが担う。ENEOSは既に全国約40カ所で水素ステーションを展開しており、ノウハウを生かす。JERAにとっては、水素ステーションの開設・運営に携わるのは初めてとなる。

東京五輪・パラリンピックでの活用もにらむ。同大会では約500台のFCVが活用される見込みで、同ステーションなどで水素を充填する計画だ。